

平成24年度第1回豊山町地域公共交通会議議事録（要旨）

1 開催日時 平成24年8月27日（月）午前11時～正午

2 開催場所 豊山町役場2階 会議室1・2

3 出席者

(1) 豊山町地域公共交通会議委員

豊山町長	鈴木幸育
あおい交通(株)代表取締役社長	松浦秀則
名鉄バス(株)運輸部運輸計画課課長	加藤直樹
名古屋市住宅都市局都市計画部交通企画課主査	池村尚哉(代理)
公益社団法人愛知県バス協会事務局長	富山純史(代理)
名古屋タクシー協会専務理事	永山明光
豊山町老人クラブ連合会元地区委員	伊藤千歳
中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官企画担当	城山浩(代理)
西枇杷島警察署交通規制係警部補	太田英一
あおい交通(株)運行課長	工藤彰郎
尾張建設事務所維持管理課長	林由紀夫
愛知県地域振興部交通対策課課長補佐	尾崎弘幸(代理)
名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授	加藤博和
豊山町総務部長	近藤鎮彦

(2) 欠席者

豊山町心身障害者福祉協会役員	河村君枝
----------------	------

(3) 事務局

豊山町理事	崎下雅司
豊山町総務部総務課長	小川徹也
豊山町総務部総務課長補佐	小出泰
豊山町総務部総務課企画財政・情報係長	高橋公仁

4 議題

報告事項

- (1) 本町の地域公共交通の現況について
- (2) 本町の地域公共交通への要望について

協議事項

- (1) とよやまタウンバス運行10周年を記念する事業について
- (2) 地域公共交通利用実態調査について

5 資料

- ①本町の地域公共交通の現況について (資料1)
- ②地域公共交通への要望について (資料2)
- ③とよやまタウンバス運行10周年記念イベント企画(案) (資料3)
- ④地域公共交通利用実態調査について (資料4・別紙)
- ⑤公共交通マップ
- ⑥とよやまタウンバスのラッピングのイメージ

6 あいさつ

- ・総務課長より開会のあいさつ
- ・町長(会長)よりあいさつ

【会長】 本日はたいへんお忙しい中、平成24年度の第1回地域公共交通会議にお集まりいただき、まことにありがとうございます。

さて、この10月で、とよやまタウンバスが運行を開始して10年を迎えます。その間、ルート分割、便数やバス停留所の増便、公共交通マップの作成など、利用者の皆様のお声に基づく改善策を実施しました。運行開始以来、利用者数は増加する傾向にあり、平成20年には10万人を、また、昨年には20万人を突破しました。とくに南ルートにつきましては、今年4月から7月は昨年度に比べて約16%の伸びです。これもひとえに、運行业者のあおい交通様を始め、皆様のご協力の賜物です。あらためてお礼申し上げます。

本日は、この10周年を記念して、バスの乗り方教室や、無料乗車日の実施など、これまで以上にバスに親しんでいただく事業について、ご提案します。

本町のバス利用者は全体的に増加してはいますが、これに満足することなく、より質の高い公共交通ネットワークを実現するために、公共交通利用実態調査を行います。OD調査、バス利用者のヒアリングや、グループインタビューなども行い、近隣の自治体との関連を含めた、より広域的な視点の調査とします。

本町の公共交通は、とよやまタウンバスだけではなく、名鉄バス西春・空港線や名古屋空港直行バスなど、複数のバス路線で成り立っています。それぞれ、運行形態は異なりますが、いずれも本町には欠くことのできない、大切な路線です。地域全体の公共交通の質を高めるために、これまで以上にそれぞれが互いに連携し、協力していただきたいと思います。

最後になりましたが、委員の皆様の活発な議論や情報交換が行われることをお願い申し上げ、会長のあいさつとさせていただきます。

7. 委嘱状伝達

- ・新委員の席にあらかじめ設置したことを確認

8. 議 事

- ・配布資料の確認
- ・会議を原則として公開することの確認
- ・議長は会長（町長）が行うことの確認

【 会 長 】 3の報告事項の（1）本町の公共交通の現況について、事務局より説明を求める。

【 事 務 局 】 （資料1に基づき説明）

【 会 長 】 ただいまの報告について、ご意見やご質問はないか。

【 各 委 員 】 （とくになし）

【 会 長 】 それでは、同じく報告事項の（2）本町の地域公共交通への要望について、事務局より説明を求める。

【 事 務 局 】 （資料2に基づき説明）

【 会 長 】 ただいま事務局から報告のあった要望は、いずれもあおい交通㈱の運行する名古屋空港直行バスに関するものである。公共交通会議委員として、あおい交通㈱の松浦社長さんがご出席されている。検討状況をお聞きしたい。

【 A 委 員 】 最初に、増便及び大型化について。新聞報道にもあったが、FDAの搭乗者数が昨年度より大幅に増え、積み残しもが発生しているため、対応しなければいけないと考えている。今年9月から55人乗りの大型車両を新規導入する予定である。

次に、勝川駅と空港間のバス増車については、従来の空港直行バスの運行区間を分離させて、幸田—空港—勝川駅という路線を新設し、現在旅客機のダイヤに合わせて運行できるように配慮している。

2つ目の名古屋駅のバス停のシェルター化については、去年から実施する方向で検討している。バス停のすぐ近くにマンホールがあるので、これを避けながら、かつバス停に近い場所に設置するように名古屋市の道庁管理者と調整中である。

3つ目のバス券の自動販売機については、乗り込む時間を短縮するためだと思う。設置に係る費用だけではなく、維持する費用や、売り上げ金を回収するコスト等もかかる。両替機を置くほうが効果的という可能性もある。現在検討中であるが、やることを決定してはいない。

4つ目の代替手段の確立については、飛行機の遅れに対応することは、現在でもできる限り行っている。

最後の航空機利用者に適したバスの配車について、ジェイエアの時

代はビジネス客が多く、荷物といってもアタッシュケースなど手元に置くようなものが主だった。しかし、FDA になってから一般の旅行者が増えて、トランクケースが目立ってきた。客層が変わってきているといえる。新しく導入するバスはトランクルームを備えたものにした。今後もそのような方向で行きたいと考えている。

【 会 長 】 改善に向けて、いろいろな努力をされていることは、とてもありがたい。

【 B 委 員 】 名古屋駅でピーチバスを見かけたが、代替のバスということか？

【 A 委 員 】 ご指摘のとおり。ピーチバスの予備車を活用している。

【 B 委 員 】 先日、名古屋空港直行バスの勝川線に始めて乗った。駅前に乗り入れたことにより、とても便利になったと思う。また、豊山町民にはあまり知られていないかもしれないが、名古屋市内に出るためには、名駅回りよりも安い場合がある。

日中や朝は遅れることがあるか？

【 A 委 員 】 多少はある。

【 B 委 員 】 以前は名古屋空港の南でものすごく渋滞して遅れた。現在のルートは混むところを避けるように設定してあるのでよいと思う。

自動販売機については、全国のいろいろな空港を訪ねたが、置いてあるところと、置いていないところがある。自動販売機よりも両替機のほうがよいかもしれない。

バス停のシェルターについては、都心の空港行きのバス停で、シェルターや待合施設がない方が珍しい。なんとか工夫して置くのがよいと思う。とてもよい場所にあるバス停なので、きちんと整備するともっとよくなる。

【 C 委 員 】 名古屋空港直行バスの利用者のうち、最終目的地が空港である人が、間違えて「空港口」で降りてしまい、雨の中、荷物を引いて空港まで行ったということがあった。紛らわしいので、近くのほかのバス停と同じように、「豊山町社会教育センター」にした方がよい。

【 A 委 員 】 バス停の位置の移動とあわせて、名称を変更する方向で検討したい。ただ、バス停の位置については、バス停を立てる位置に当たる地権者との調整も必要となる。実施するときは、あわせて行いたい。

【 B 委 員 】 普通の路線バスはその地域の利用者がわかればよいのだが、空港バスは全国の方が使われるので、全国の方が分かるような名称にすべきだ。「口」というのは、すぐ近くを示す場合もあるし、遠くを示す場合もある。「前」とか、「入口」なども同様である。間違えやすいので、施設等の名称にする方がよいと思う。

【 会 長 】 4の協議事項（1）とよやまタウンバス運行10周年を記念する事業について、事務局より説明を求める

【 事 務 局 】 （資料3に基づき説明）

【 会 長 】 ただいまの説明について、ご意見やご質問はないか。

- 【 D 委 員 】 無料乗車キャンペーンについて、3点ほどお聞きしたい。割引運賃として運賃設定の届出をされるのか、無料にすることにかかる経費と補助金の関係、競合バス路線のある名古屋市交通局と調整状況について、教えてほしい。
- 【 事 務 局 】 1点目は、無料乗車ということだが、割引運賃として行政手続きを行う。運行事業者のあおい交通㈱に運輸支局へ届け出を行っていたこととなる。
2点目のバス協会の助成金との関連については、とよやまタウンバスの場合は、運賃は運行事業者のあおい交通が収入として受け入れ、運行に要する経費からその収入を差し引いた分を本町が負担している。無料乗車にした場合、あおい交通㈱の収入が減って本町の負担が増えることになるが、本事業実施時に直接経費支出があるわけではないという中で、助成金との関係は整理する。
3点目の名古屋市バスとの調整については、名古屋市の交通局と事前に調整をし、おおむね、ご了解をいただいている。
- 【 A 委 員 】 割引運賃については、本日の公共交通会議で調整が調ったということでしょうか。
- 【 D 委 員 】 よい。
- 【 E 委 員 】 バスの乗り方教室について、積極的に協力させていただきたいが、私どもの持っている車両が会場の豊山グラウンドに入れるかどうかを確認する必要がある。最も小さい車両を手配することになると思うが、図面を見ると道が狭隘である。
バスの制服については、子どもに着ていただいて保護者が写真を撮るといった形になる。ただ、これもわれわれの車が入らないとできない。
近いうちに実際に車両を豊山グラウンドに持っていくので、確認させていただきたい。
- 【 事 務 局 】 了解した。
- 【 会 長 】 他に意見もないようなので、協議事項（1）とよやまタウンバス運行10周年を記念する事業について、この内容で行ってよろしいか。
- 【 各 委 員 】 （異議なし）
- 【 会 長 】 続いて、協議事項（2）地域公共交通利用実態調査について、事務局より説明を求める。
- 【 事 務 局 】 （資料4に基づき説明）
- 【 会 長 】 ただいまの説明について、ご意見やご質問はないか。
- 【 B 委 員 】 先ほど提案のあった無料乗車キャンペーンとも関係するのだが、調査を行うにあたって、名古屋市交通局がOKしているのか、もし条件があるならば、どのようなものかをお聞かせいただきたい。
調査自体は、名古屋市の交通政策のためにもよい。

また、住民アンケートにおいて名古屋市バスの延伸について問う予定とあるが、その意味をよく考えて調査する必要がある。

【 事務局 】

1点目の地域公共交通利用実態調査については、無料乗車キャンペーンと同様に、名古屋市交通局にはご了解をいただいている。先ほどの無料乗車キャンペーンについて、「おおむね了解」と申し上げたが、名古屋市バスや地下鉄に対する影響は軽微と思われるので、問題ないという理由で了解していただいたということである。ただし、このキャンペーンが栄と県庁や、黒川の間の利用者の数にどのような影響を与えたかを知りたいので、終了後に無料乗車を利用した方のデータを教えてほしいという要望をいただいているので、これに対応する。また、利用実態調査の結果についても提供するように要望されている。具体的な調査方法については、今後、名古屋市交通局と相談しながら、決める。

2点目の住民アンケートにおける名古屋市バスの延伸に関する調査について。空港の利用者や空港の周辺を含めた事業者などが名古屋市方面から、本町に来るためには、いろいろな選択肢があったほうがよく、それが町への利益につながると考えている。現在ある名鉄バスや名古屋空港直行バス、タウンバスなどにはそれぞれの役割があるが、そのようなルートに影響を与えないような形で、別の役割として名古屋市バスが入ってくるルートがあるのではないかと考えて、名古屋市交通局に申し入れをした。

たとえば空港に入るためには、現在あるルートとは別に、こういうルートがあるのではないかと、如意車庫を経由するこういうルートがあるのではないかとというような具体的なルートをお示しながら、町民の考えを調査し、今後の名古屋市との調整の中に反映させていきたい。

【 B 委員 】

1番目の調査については、本町にとってもよいことなので、ぜひやってほしい。

2番目については、実際にやるということが決まっているのならよいのだが、そうではない段階で、具体的なルートを町民に示すのは危険であると思う。たとえば、今は本町から名古屋市へ出る場合、1時間に1本で、運賃はいくらくらいであるが、これが20分もしくは30分に1本で、運賃が200円であったらどうか、マナカが使えたらどうかというような質問はあると思うが、直接ルートを示したり、名古屋市バスがどうかという話をするのは、やめたほうがよい。

もし、実際に行うというのであれば、市バスの延伸があおい交通(株)や名鉄バス(株)にどのような影響を与えるかということをよく考えないと、思わぬ反響が出る。

【 F 委員 】

今回の事業については、名古屋市交通企画課にも交通局にも事前に提案があり、名古屋市としては特に問題がないと思う。調査結

果はしっかり報告して欲しい。また、9月14日の町民討議会議について、傍聴が可能であるか？

【事務局】 傍聴の席は用意してあるので、ご都合がつけば、皆さん参加していただき、町民の生の声を聞いてほしい。

市バスにかかるアンケートの具体的な内容については関係機関や事業者とも調整して、決めて行きたい。

【B委員】 空港やエアポートウォーク名古屋に名古屋市バスを乗り入れてよいかと聞けば、100%よいと答えると思う。もし行うならば、他の関係者とよく調整をしてから進めるべきである。

町民討議会議については、全国的に珍しい先進的な取組であり、とてもよいと思う。

無料乗車キャンペーンについては、たとえば最終日あたりに、町外において評判になり、たくさんの方が乗車して、豊山町の方が乗れないということになるといけない。豊山町のみ限定するという方法はどうか。

【事務局】 町内区間のみを無料とする案も検討したが、有料・無料が混在すると運賃收受を行う乗務員の負担が大きく、トラブル原因にもなると考え、全区間無料とした。

イベントの広報は、町の広報誌やバス停への掲示などを行うが、町外に対して広くPRする予定はないため、町外からの利用はそれほど多くなると考えている。

【E委員】 名古屋市バスの延伸について、もし実現されたら名鉄バス(株)への影響は大きい。現在は単独で運行しているが、それが不可能になる可能性もある。

提案するときには、負担についても示すべきであると思う。仮に名古屋市バスが乗り入れた場合、豊山町に新たな費用負担が発生すると見込まれる。一人当たりの負担がどれくらいになるのかを、タウンバスの負担例もあわせて示しながら、問うことが望ましい。

【会長】 皆様から貴重なご意見をいただいた。事業を行う際にはまたあらためて、それぞれの意見を聞きながら行いたい。こういう方針で、協議事項(2)地域公共交通利用実態調査について、お認めいただくということによろしいか。

【各委員】 (異議なし)

【会長】 以上をもって、提案した議題の審議を終わらせていただきたい。

【司会】 協議事項のほか、何かご意見などがあったらお伺いしたい。

【各委員】 (なし)

【司会】 事務局からは何かないか。

【事務局】 ありません。

【司会】 以上で平成24年度第1回豊山町地域公共交通会議を終了する。